

授業概要

子どもの発達において「言葉」は、コミュニケーションの手段、行動の調整、考える道具として非常に重要な役割をもっている。そこで、本授業では言葉について子どもが興味や関心を広げ、より良い成長を促すために、保育者が言葉の観点から深く保育について考察できるように講義する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション 履修説明、講義の目的、幼児教育と言葉について
第 2 回	言葉の発達 乳児・幼児前期・幼児後期の言葉の発達、言葉の発達と養育者の言葉
第 3 回	脳と言葉の発達 運動機能と言葉の発達、触覚・聴覚と言葉の発達
第 4 回	聞くこと・話すこと 乳児・幼児前期・幼児後期の言葉指導
第 5 回	読むこと・書くこと 文字の力を育てる、発達に合わせた環境づくり
第 6 回	言葉遊び 乳幼児の言葉遊び、言葉の少ない子ども
第 7 回	劇遊び 年齢別役割遊びと劇ごっこ
第 8 回	読み聞かせ 読み聞かせ演習、留意点
第 9 回	紙芝居・人形劇 紙芝居の演じ方、保育での人形劇の実際
第 10 回	お話 子どもに対するお話の仕方
第 11 回	テレビと視聴覚・うた 幼児のテレビ視聴について、わらべうた・童謡と言葉
第 12 回	言葉の障害 1 言葉の障害の種類、障害をもつ子どもに対する保育者の心構え
第 13 回	言葉の障害 2 障害に応じた言葉指導について
第 14 回	保育者の言葉 1 保育者が言葉を大切にすることの重要性
第 15 回	保育者の言葉 2 保育者の対応と留意点（子ども・保護者）
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ・子どもの言語発達過程を理解し、言葉を身につけることの意味を説明できる。
- ・読み聞かせや言葉遊び等の演習を通して、子どもの言葉の世界を広げる方法を習得できる。

履修上の注意

授業の中に演習形式の内容を多用していきたいと考えている。積極的な参加意欲を期待したい。

予習・復習

前時に出した課題をもとに、本時を構成する。課題に自分の感想や意見を自由に表出することが本時の復習となり、次時の予習となる。

評価方法

授業内レポート 70%、学期末レポート 30%

テキスト

テキストは使用せず、毎回の講義で必要な資料を配布する。